

9. 朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会の報告



2019年12月28～31日、朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会が異例の長さで開かれた。その報告が朝鮮中央通信(KCNA)2020年1月1日号に掲載された。米朝協議に関しては、米国が約束を守らないなかで北朝鮮だけが過去の約束に拘束されることはないと言った。また、制裁が続くことを前提に、経済を中心とした自力更生による正面突破戦を貫くという方針を強調した。

❖ チュチェの革命偉業の勝利の活路を明示した不滅の大綱 —われわれの前進を妨げるあらゆる難関を 正面突破戦によって切り抜けていこう—❖

平壤発、1月1日、朝鮮中央通信

すべての党员と人民、人民軍将兵の大きな期待と関心の中、朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会がチュチェ108(2019)年12月28日から31日まで党中央委員会の本部庁舎で行われた。

(略)

総会は、前代未聞の厳しい難局を正面突破し、国の自主権と最高の利益をあくまで守り抜き、自力富強の旗を高く掲げてチュチェの革命偉業の勝利の活路を切り開くための不滅の大綱を示したことにより、朝鮮労働党の歴史と自主強国の建設史に特記すべき出来事となる。

(略)

国防科学技術の先進国だけが保有している先端兵器システムを開発するという膨大かつ複雑なこの事業は、科学技術の面で革新的な解決策を誰かの助けもなしに、われわれ自ら見いだすことを前提とし、これらすべての研究課題は主体的力量すなわちわれわれの頼もしい科学者、設計家、軍需工業部門の労働者によって完璧に遂行された。

(略)

金正恩委員長は、敵対勢力の悪どい制裁によって多くの制約を受け、不利な気象・気候が続く中でも今年度の農作で最高収穫年度を上回らなかつた大豊作がもたらされたとし、三池淵市建設の第2段階工事が終わり、革命伝統教育の中心地に山間文化都市の立派な標準、理想的なモデル地方都市が建設され、^{チョンピョン} 坪野菜温室農場と育苗場、^{ヤンドク} 陽徳温泉文化休養地の建設がわが党の構想どおりに完工することによって、人民に先進文明の創造物を贈ることができるようになったと述べた。

また、元山葛麻海岸観光地区と順川^{スンチュン}磷酸肥料工場の建設、漁郎川^{オラン}発電所と端川^{タンチュン}発電所の建設をはじめ全国各地で同時に繰り広げられている対象建設も綿密に推進され、金属、石炭、建材工業と軽工業をはじめ人民経済のほとんどすべての部門が著しい成長を見せていると指摘した。

金正恩委員長は、全国に自力更生競争を呼びかけた江原道が党政策貫徹の手法となる経験を引き続き創造し、平安北道をはじめ他の道も競って農産と畜産、教育と保健医療、地方工業の発展において顕著な実績をあげていることを評価し、これは全人民が(略)、堅忍不拔の増産運動、創造運動を果敢に展開してきた偉大な闘争の必然的結果であると強調した。

(略)

金正恩委員長は、アメリカがわが国家の根本的利益に反する要求を持ち出して強盗さながらの態度を取っているため、朝米間の膠着状態は不可避免的に長期性を帯びることになっているとし(略)、対話を云々しながらも、わが共和国を完全に窒息させ、圧殺させるための挑発的な政治的・軍事的、経済的策を一層むきだしにしているのが白昼強盗アメリカの二重的行為であると釘を刺した。

(略)

敵対勢力の制裁と圧迫を無力化し、社会主義建設の新たな活路を切り開くための正面突破戦を強行しなければならない。正面突破戦は、朝鮮革命の当面の任務からしても展望的な要求からしても必ず遂行すべき時代の課題である。

(略)

「われわれの前進を妨げるあらゆる難関を正面突破戦によって切り抜けていこう!」、これが今日、全党と全人民が掲げていくべき闘争のスローガンである。

金正恩委員長は、今日の正面突破戦において基本戦線は経済部門であると述べ、国の経済土台を再整備し、可能な生産潜在力を最大限に活用して経済の発展と人民の生活に必要な需要を円滑に保障することを、現在経済部門に提起される当面の課題として提示した。

(略)

自立経済を支える主要工業部門から幾多の難関を正面から突破し、実際の生産の高揚を起こさなければならないと述べた金正恩委員長は、金属工業、化学工業、電力工業、石炭工業、機械工業、建材工業、鉄道運輸、軽工業部門に山積している弊害と不振状態を全面的に分析し、経済活動で新たな前進をもたらすための科学的かつ実質的な対策をいちいち示した。

(略)

金正恩委員長は、国の経済を安定的に、将来を見通して発展させるための10大展望目標の指標別計画を科学的に正確に見積って立て、(略)国の経済的土台をきちんと強化していかなければならないとし、(略)、全人民的な生産闘争と創造闘争を猛烈に展開してそれを必ず達成しなければならないと述べた。

(略)

金正恩委員長は、農業部門は正面突破戦の主要攻略部門であるとし、農業部門で科学的農法をとらえて多収穫熟風をより強く巻き起こすべきであると指摘し、(略)畜産業と果樹栽培業など農業の各分野で新たな転換をもたらすための重要な問題を提起した。

金正恩委員長は、今日われわれが依拠すべき無尽蔵な戦略的資産は科学技術であるとし、現在のように経済活動に隘路が多い時には科学技術が灯火となって前途を照らし、発展を先導しなければならないと指摘した。

(略)

金正恩委員長は、保健医療は人民がわれわれの制度の優越性を肌で感じる社会主義のイメージの主要徴表であると言及した。

(略)

金正恩委員長は、われわれが朝米間の信頼構築のために核実験と大陸間弾道ロケットの試験発射を中止し、核実験場を廃棄する先制的な重大措置を講じたこの2年間にもアメリカはこれにしかるべき措置をもってこたえどころか、大統領が直接中止を公約した大小の合同軍事演習を数十回も行うとともに、先端戦争装備を南朝鮮に搬入してわれわれを軍事的に威嚇し、十余回の単独制裁措

置を講ずることによって、われわれの体制を圧殺しようとする野望には変わりがないということを再度、世界の面前で証明したと述べた。

こうした状況下で、守ってくれる相手方もない公約にわれわれがこれ以上一方的にしばられる根拠はなくなり、これは世界的な核軍縮と核拡散防止のためのわれわれの努力にも水を差していると言指した。

(略)

金正恩委員長は、誰も手出しができない無敵の軍事力を保有し、引き続き強化していくのはわが党の揺るぎない国防建設の目標であるとし、いかなる勢力もわれわれにはあえて武力を使用することを考えられないようにするのがわが党の国防建設の中核的な構想であり確固不動の意志であると述べた。

金正恩委員長は、戦略兵器の開発もさらに強力に推し進めるべきであるとし、アメリカの強盗さながらの行為によって、(略)依然として敵対的行為と核の脅威・脅迫が増大している現実において、われわれは可視的経済成果と福楽だけを見て未来の安全を放棄することはできないと断言し、世界は遠からず朝鮮民主主義人民共和国が保有することになる新しい戦略兵器を目撃するだろうと確言した。

金正恩委員長は、(略)、アメリカの対朝鮮敵視が撤回され、朝鮮半島に恒久的で、かつ揺るぎない平和体制が構築されるまで、国家の安全のための必須的かつ先決的な戦略兵器の開発を中断することなく引き続き力強く進めるであろうことを断言した。

金正恩委員長は、アメリカの核の威嚇を制圧し、われわれの長期的な安全を保障できる強力な核抑止力の経常的動員態勢を堅持するであろうとし、われわれの抑止力強化の幅と深度はアメリカの今後の対朝鮮の立場によって上向きに調整されるであろうと述べた。

(略)

出典：『朝鮮中央通信』2020年1月1日。

以下のURLで「最高指導者の活動」をクリックし、「朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会が行われる(2020.01.02)」をクリックする。

<http://www.kcna.kp/kcna.user.special.getArticlePage.kcmsf>

アクセス日：2020年4月14日